

第12回 神々の怒り – 震災復興で生き残ったコンスタンティノポリス

イスタンブールという名前はギリシア語で「エス・テン・ポリン（ポリスへ）」という意味からトルコ語に転化したという。現在はトルコ共和国の都市であるが、もとは紀元前七世紀にギリシアの植民地であるビュザンティオン（ヨーロッパサイド）とカルケドン（アジアサイド）がボスフォラス海峡を挟んで、黒海沿岸諸都市から穀物をギリシア・ローマ世界へ運ぶ通商路にあっていた。ローマ時代の末期、紀元四世紀に「新ローマ」という都市に合体し東ローマ帝国（ビザンツ帝国）の首都になる。しかし、市民たちはその呼び名を好まず、皇帝の名を取って「コンスタンティノポリス」と呼んだ。



イスタンブールとボスフォラス海峡 (㊤ヨーロッパサイド・㊦アジアサイド、1993年スケッチ)

ローマ帝国はいわゆる五賢帝の後（AD180年以降）、北方の蛮族（ゲルマン民族）が帝国内へ移住を始め、政治や経済活動に混乱が起きるようになった。皇帝ディオクレティアヌスはAD301年の勅令で身分の固定化、価格統制を打ち出すとともに官僚機構と成文法が急激に膨張した。いつの世でも専政は「悪」だが、時には必要な場合もある。大きな組織、文明にあずかる民衆が動揺しているとき、紀元三世紀から四世紀にかけてのローマ帝国がまさにそうだった。大帝国は四分割された。その後に皇帝となったのがコンスタンティヌスだ。分割されたローマ帝国を再び統一し、豊かな東方への遷都を企図したのである。コンスタンティヌスがいつキリスト教徒になったのかわからないが、公認はキリスト教側にとって悪くない話だった。当時のローマにはギリシア以来3万ともいわれる神々がいたのに、偶像（皇帝）崇拝を拒否するキリスト教が皇帝権力と結びついたのだ。皇帝側はキリスト教の持っていた教会組織のほうが膨大な官僚組織より行政能率がいいと判断したのだろうか。あるいはヘーゲルが指摘するように、キリスト教会と皇帝権力は同じ支配構造を持っていたのか。キリスト教が国教になったのは395年で、同時にローマ帝国も東西に分離した。



現在も残るテオドシウスの大城壁（1993年撮影）

4世紀末から凶暴をもって鳴るフン族がロシアからなだれ下り、すでに東方辺境に連合国家を作っていたゴート族に襲いかかって、ローマ帝国への侵入をうかがわせていた。東ローマ帝国は外交交渉で何とかしのいだが、西ローマ帝国はフン族に押し出された西ゴート族によってローマ市域の掠奪に遭うはめになった（410年）。ローマ帝国は西も東も軍隊が蛮族で構成される状況だったので、掠奪軍と防備軍が同一民族という情けない構図だ。このローマ市掠奪に震撼したコンスタンティノポリス市民は皇帝テオドシウスのもとで総延長7kmにおよぶ大城壁を築いた。しかしフン族侵入のおそれがその後に現実化した。447年、アッティラひきいる大部隊がコンスタンティノポリスに迫る形勢を見せたのだ。その時「神々の怒り」というべきか、あの悪名高い災害（大地震）が起こり城壁の半分以上が崩れ落ちた。人々は37年前のローマ市を思い出し、生きた心地がしなかったにちがいない。いつも災害の罪をかぶせていたキリスト教徒は、今や皇帝と民衆自身であるからだれのせいにもできない。皇帝テオドシウス二世は敵に金や贈り物を送って時間を稼ぐとともに、市民1万6千人を動員して城壁の大改修をたった2ヶ月の突貫工事で成し遂げた。それは大改修というより抜本的な増強工事だ。3重の城壁と96の監視塔それに外側の堀からなる難攻不落の大城壁によみがえり、1500年前にギリシア軍の木馬作戦（震災！？）に陥落したトロイアの轍を踏まずにすんだ。

西ローマ帝国は476年に皇帝が廃位され、蛮族（ゲルマン民族）支配の帝国になる。そして残された東ローマ帝国でローマ人と名乗るギリシア系の人々による中世の物語が始まる。古来の文明と宗教をすべてのみ込んだ広大な古代ローマ帝国だったが、大城壁と海峡に囲まれた狭いコンスタンティノポリスに栄光の古代社会がキリスト教（ギリシア正教）とともに封印されたのだ。

封を破ったのは1000年後の1453年、イスラム教徒のオスマントルコ軍だった。かくしてコンスタンティノポリスはモスクとミナレットの建ち並ぶイスタンブールへ変貌していくが、依然として北アナトリア断層にひそむ「神々の怒り」がおさまる気配はない。震災の歴史は断絶することなく現代に通じているのである。

（参考図書）

ヘーゲル（長谷川宏訳）「歴史哲学講義（下）」（岩波文庫）1994年

E.A.トンプソン（木村仲義訳）「フン族-謎の古代帝国の興亡史」（法政大学出版局）1999年

R.Gore “Wrath of the Gods” (National Geographic) July 2000

P.Sarris “Byzantium” (OXFORD) 2015